

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員にはまずオリエンテーションで理念を共有してもらえる様に努めている。	ホーム独自の理念を職員は理解しており個々の言葉で具体的に語れる。毎月家族に送る「グループホームコスモス通信」にも掲載され家族への周知も図っている。「ゆっくり楽しく過ごしましょう」のスローガンも居室に大きく掲げられ、利用者に接する職員の言葉にも「ゆっくり食べましょう」、「ゆっくり歩きましょう」との声かけが常に聞こえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「よったいや」の会を作り、地域の人や家族の方々と自由にGHIに寄り、おやき作りやおはぎを一緒に作り団らんする機会を設けている。	ホーム独自に行われる「夏祭り」には地域の方も参加し賑やかに開催されている。敬老会には歌、紙芝居、腹話術などのボランティアが訪れ、ハロウィンでも園児が来訪している。専門学校生の実習の受け入れもしており、本人の希望もあり夜勤も体験していただいている。玄関前が複合施設内の私道で近隣の人々も往来しており、その折に季節の野菜を届けていただくこともある。「俺も利用したいから室内を見せて欲しい」と気軽に立ち寄り近所の方もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の出席者や併設の老健主催する介護者の集い等々で認知症の理解や啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議という堅苦しいものでなくした親しみやすいネーミングで地域の方々と一緒に何かできる事はないか模索しているが「よったいや」が飛躍するように努めたい。	偶数月の第2土曜日午前10時30分から家族代表、地域代表、民生委員、あんしん(介護)相談員、市介護保険課職員、地域包括支援センター職員が出席し双方向的な話し合いが行われている。出席者から「人の心をつかむには胃袋をつかむこと」といった具体的な助言を頂き、地域の人々がお茶を飲み食べながら歓談し、お互いの距離を縮められるように「よったいや」という場が生まれた。地域のために設立した同じ敷地内のコミュニケーションホールで地域の独居老人の会が行なわれ、理事長の講話も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席される介護保険課の職員やあんしん相談員さんに日頃の事や取り組み等々を伝えている。	介護認定の更新申請や変更申請を代行しており、認定調査員が来訪した時は家族に代わり本人の様子を伝えている。あんしん(介護)相談員も毎月来訪している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言動・態度・等々の取り組みの中でも「拘束しない」ケアに努め朝礼終礼の申し送りでの目標に取り入れている。	身体拘束についての内部研修が隣接老健と一緒にに行われ、禁止の対象となる具体的な行為を職員は熟知している。玄関は日中開錠しており帰宅願望の利用者も職員の見守りや声かけでの対応により離脱までには到っていない。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的にどの様なことまでが虐待になるのか日頃から職員と話す機会を設けたり精神的にも追い込まれないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人職員も増え、再度。学ぶ機会を設けたいと計画している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明も大切ですが、十分に理解を得るまでの時間や信頼関係を築くまでの不十分さを感じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族と共に食事作りをする機会を設け、話し易い環境作りに努めている。	家族の来訪はそう多くはないが、日常身の回りの世話を担当職員により毎月のコスモス通信と一緒に生活記録が送られている。「運営推進会議」や「よったいや」、「夏祭り」には家族も来訪するので意見・要望を聞くようにしている。独居からの利用者も最初は自分の名前、子供や兄弟の状況について何も言わなかったが、ホーム利用後元へ戻り、自分の主張も言えるようになっていく。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員の全体会議で出された問題や提案をホーム長会議で発表したり代表者に反映していく機会がある。	月1回のセクション会議が第2火曜日夜に1、2階合同で行われている。職員の勤務は1、2階全体でシフトを組み利用者全員を把握できるようにしている。人事考課を兼ねての自己評価が年2回あり、実績や努力をホーム長が評価し代表者に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価が年2回あり実績や努力は代表者に伝えられる機会がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(+)実習生指導者研修を受けた職員が主に新人の指導に当たっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北信地区のネットワークに加入しており機会を利用して一緒に研修会や悩み相談、取り組み等々の交流がある。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接の段階で困っていること実情を把握しながらサービスの確認をしながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	2か月に一度の「よったいや」の会で家族と共に食事作りから関係を築き、相談しやすい場作りに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の中では常にグループホーム以外のサービス面や在宅での生活が本当に不可なのか家族と話し合いを持ち困っている事を見極める事に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや生き方まで教えてもらったり若い職員を可愛がってもらったり持ちつ持たれつの関係が自然に出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との間柄を修復しながら関係作りと信頼に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話連絡等々本人の出来る能力を見極めながら必要な支援に努めている。	利用前の近所に住んでいたお茶のみ友達や働いていた職場の人などの来訪がある。湯茶で接待し自室でくつろいで頂いている。男性利用者が元住んでいた街の理髪店へ行ったり、女性利用者にはホーム近くの美容院の方が来てくれる。家族とお墓参りをする利用者もいる。年賀状は職員が宛名書きをし知人に出したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲良く楽しく過ごせるように席替えや入浴に気を配っている。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族が立ち寄ってくれたりホームで必要な物を持って来てくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を第一に日頃の会話等から将来の事まで希望を聞いて家族に伝える事もあり会話を大切にしている。	大半の利用者は自分の思いを表出できる。日頃から歌が好きで唄いながらストレッチをしたりしている。利用者の多くは「信濃の国」が特に好きで、夏祭りには振り付け入りの「信濃の国」の踊りをした。遺言状的なものを書きホームに預けている利用者もいるという。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴やサービス利用者の情報は全体会議で説明し情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の申し送りで一日の生活体調の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会の折になるべく要望意向を聴き介護計画を話し合っ課題を見出しケアに反映するよう努めている。	日常の世話(下着、歯磨き、歯ブラシ、衣類の入れ替えなど)をする担当制はあるが支援については全職員で関わっている。面会時には家族の要望や意向を聞き、セクション会議でモニタリングをし、計画作成担当者によって各利用者の介護計画が立てられている。計画立案後は毎日の生活の記録や申し送りで情報を共有し、ケアに努めている。状態が変わった時は計画を作り変えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、日々の様子を記録するほか、口頭での申し送りに加え更にノートに申し送る方法で情報を共有しながらケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健のPT・ST・相談員等々にアドバイスをもらったりしている。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や家庭内の行事に参加したり季節によっては近くの寺や公園で時期の物にふれあい暮らしの中にもメリハリを持てる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院にも一緒に付き添ったり本人や家族が希望する病院との関係も築いて情報の共有をしている。	ホームの利用開始時に敷地内のクリニックが主治医となるケースが多い。2週間に1回の往診、年2回の健康診断が行なわれている。訪問看護師も主治医の往診の間、2週間に1度来訪し健康管理や相談に応じている。月1度薬剤師による薬の指導もある。主治医の専門以外の科目については紹介状を頂き家族が同伴し、職員も付き添い状態を説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導等で薬剤師と本人または訪問と相談しながら適切な受診ができるような支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設されている病院に緊急で入院できたり看護師に応援して頂ける体制作りが出来ている。		に
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人の意志を尊重し十分に出来る事、出来ないことを話し合い希望にそったケアが可能か見極め出来る支援に努めている。	日頃、死を避けての会話が出来ないことから利用者や重度化や終末期、死などについての話し合いがお茶を飲みながら行われている。「あなた私を見てから会社辞めて」、「ここで亡くなっていかなければいいよ」、「私は家族に看取られたい」、また、家族からも「病気になる時は・・・」、「搬送先は・・・」と意向を聞いている。過去に看取りも行ったことあるので職員も柔軟に対応ができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新しい職員が多くなったのでこれからは実践力を身につけてもらうよう研修訓練に取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を実施したり又、運営推進会議の中に地区の消防団員さんの参加もあり意見を頂いている。	年2回、ホーム独自の防災訓練(1月)と複合施設との合同訓練(2月)が行われている。独自の防災訓練は消防署立会いの下、夜間に利用者も参加し行われている。動きながら通話できるので通報は携帯電話を使用することもある。同時に消火訓練も行われ、浮かび上がった問題点・課題にはその都度対策を練っている。複合施設全体が耐震構造であるため災害時には自然に住民が集まり地区の避難所となるのではと予測している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが入室時には必ずノックをして訪室したりシーツ交換時には本人の了解を得てから入室している。	苗字に〇〇さんと呼びしているが、同じ苗字の方がおられる場合は名前でお呼びしている。認知症の方と介護者という関係ではなく、人と人の関係で支援している。そのため、日常生活の中で喜怒哀楽の感情表現もあり、逆に職員が怒られる場合もあるが、お互いに謝り合い関係を修復し、「私も言いすぎた」、「ごめんね…」と職員をねぎらう言葉が利用者からも出るという。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境作りに努めており日頃から希望を聞いたりして働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、皆にお茶を飲みながら新聞読みをしておりその時に毎回、希望や話題を投げかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師さんにカットに来て頂いたりまたは職員と美容院に行く事もある。洋服を選んだりすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節によっておやきやおはぎ等々職員と一緒に準備したり作ることがある。	介助を必要とする利用者が数人で残りの方は自力で食事をしている。食形態もおかゆの方が四分の一ほどで献立は隣接老健の献立を使用し、材料はホームで用意している。おやつはなるべく手作りにしている。利用者も力量に合わせ、材料の刻み、個々のおぼん拭きなどを行っている。誕生日のお祝いに何が食べたいのかとの問いかけに、「いらせんべい」、「即席ラーメン」などと昔懐かしいものを希望される利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立表で食事を摂取で個々に牛乳やお茶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適切なトイレ誘導や声掛けで失敗しないよう努めている。	殆どの方が自立しており、布パンツか布パンツにパット、夜はリハビリパンツや12時まで支援すると朝まで布パンツで通す利用者もいる。歩行が危ぶまれる方はポータブルを使用している。排泄チェック表から職員は利用者を誘導しているので失敗はあまりない。あった場合は「ちょっとあちらに行きましょう・」と他の利用者に知られないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無を知り水分補給や運動の勧めを行い場合によっては訪看につなげる事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが時間帯は個人の好みに合わせ仲の良い人同士で入浴を楽しんだりしている。	1階と2階の入浴日が違うので入浴しようと思えば毎日でも入ることが出来る。普段は1対1の支援だが、浴槽が深いので利用者の状態によっては2人介助の時もある。「草津節」などを職員と唄いながら入浴を楽しんでいる方もいる。拒む時は「体重を測るので脱いでもらえますか・」などとお風呂に誘っている。時には全員が入れる隣接老健のお風呂へ行き、温泉気分を味わうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年令や体調に合わせても休憩時間をとったりしながら支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりに薬の説明書を確認してもらい病変や薬が変わったときは申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃から何をしたいか、好きな食べ物は何か等々と話題を提供し情報収集しながら楽しみを探っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は戸外や近くの公園等々へ散歩に行ったり敷地内にあるプチカフェで気分転換したり季節ではお花見やドライブ、紅葉狩にも出掛ける。	天気の良い日には車椅子、シルバーカー、杖、自力歩行とそれぞれの状態に合わせ散歩に出かけ、途中農作業の人と挨拶を交わしたり、最終、プチカフェでアイスやお茶、ケーキなどを食べるのが楽しみとなっている。近くの古戦場、動物園、桜や杏の花見、善光寺へと出掛けている。外食で回転寿司に行き、好きなものを頼み楽しんでいる。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっており、必要な時には本人と共に買い物に行ったり職員が代わりに買ってきたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話をかけたり取次ぐ支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏の陽射しが強い南側に朝顔を植え日よけに居たり必要に応じて冷暖房の調節をしたり換気や湿度にも気を配っている。	居間は広く、暖かな日射しがさしこみ一隅には台所もある。お茶を飲みその日の新聞の話題を話し合ったり、歌を唄いながらストレッチ体操が行われている。畳のコーナーもあり炬燵もある。昼食後は思い思いの場で休息をとっており、壁には皆で作った色鮮やかなシクラメンのちぎり絵が飾られている。スローガンの「ゆっくり楽しく過ごす」場所づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	休みたい時も自由に休息したり仲の良い者同士で居室で雑談したり訪室しあったりしている。特に工夫しなくとも自由な空間を個々で生み出している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の日常生活を知り通常、ベットが備えられているが床に布団を敷いて就寝したり食事を正座して食べたいと希望があれば本人の意志に添っている。	ベットと筆筒はホームで用意されている。大きな押入れがあるので居室の中は整理整頓されている。塗り絵の好きな利用者は自分の作品を沢山壁にはり、中に美味しそうな恵方巻きの広告写真も混ぜていた。写真で美味しさを楽しんでいるように思われた。利用はじめて間もない利用者の居室は帰宅願望が強いのか荷物がまとめられ何時でも帰るようになっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士が他者の「出来ない事」「わからない事」を補い合って生活している場合が多く安全を見守りながら自立支援をしている。		